

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 7日から8日は、発達した低気圧が千島近海からカムチャツカの東へ進み、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。
- 8日から9日は、気圧の谷が本州南岸を東進して、高気圧が黄海から本州付近へ移動する。
- 10日は、高気圧がゆっくりと日本の東へ移動する。
- 11日は、高気圧は日本の東を遠ざかり、気圧の谷が東シナ海から西日本付近へ進む。

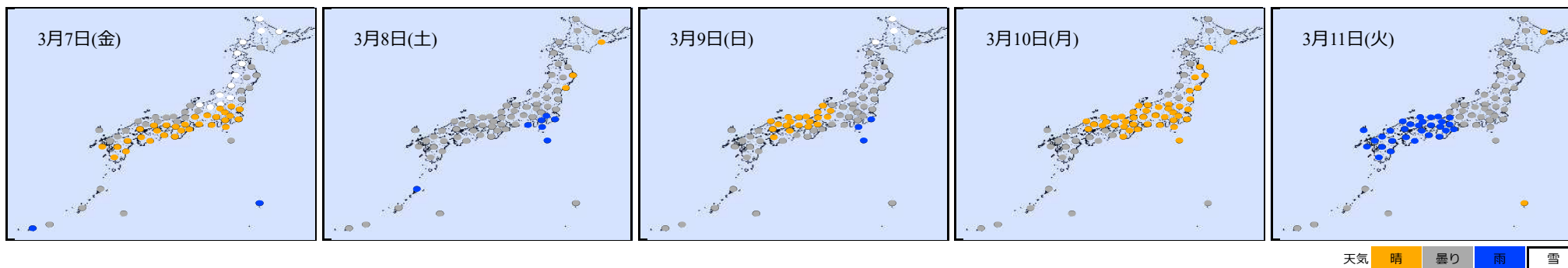
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

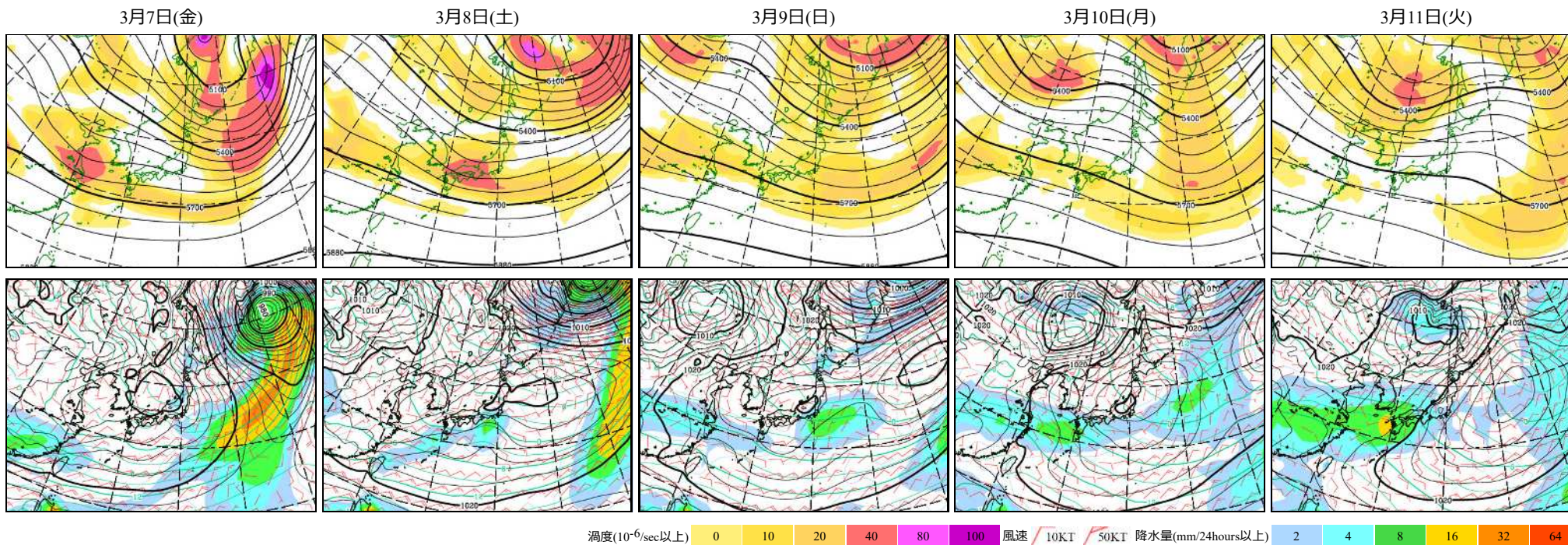
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

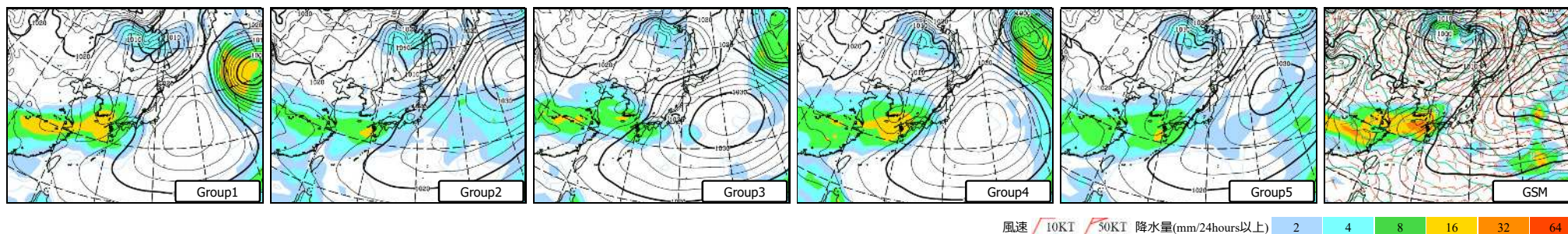


- 北日本から東日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 北日本から東日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れの日が多いが、8日と9日は雨または雪の降る所がある。
- 西日本は、晴れや曇りの日が多いが、11日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月11日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、9日から10日に中国東北区から日本付近へ進むリッジが強まり、本州付近を東進する高気圧が明瞭となったことに対応して、本州付近の降水確率が小さくなった。また、11日頃は気圧の谷による降水域が西日本にかかる予想となり、西日本の降水確率が大きくなった。
- スプレッドは昨日資料より小さくなったが、9日以降は5400m線の特定高度線にばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。